

# 脱炭素に関するビジョンと 施策の方向性について

2023年1月23日

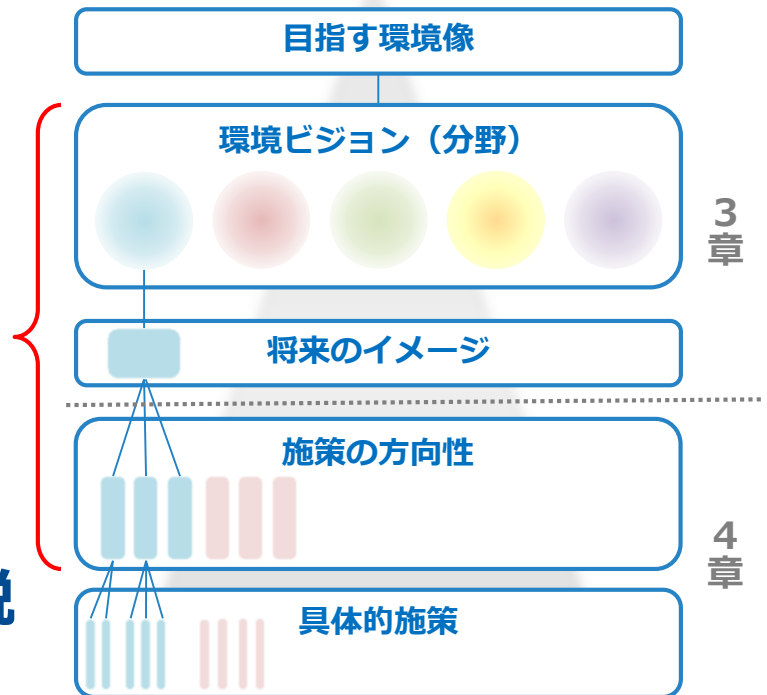
# 全体のスケジュール

	環境審議会	脱炭素部会	市	計画の項目
2023年 1月		<b>【第2回】</b> ・脱炭素に関するビジョンと施策の方向性の検討 ・脱炭素シナリオの作成方法の説明	庁内ヒアリング 市民懇談会の案内、アンケート実施	3章：守山市の目指す環境ビジョン
2月			2/4(土) 市民懇談会	序章：2050年守山市のありたい姿
	<b>【第2回】</b> ・環境ビジョン・施策の方向性の検討 ・市民懇談会の報告			3章：守山市の目指す環境ビジョン
4月		<b>【第3回】</b> ・温室効果ガス排出量の部門ごとの削減目標の検討 ・再エネ導入目標の検討	事業者ヒアリングの実施	4章：各ビジョンの実現に向けた施策
5月	<b>【第3回】</b> ・「自然と共生するまち」「安全で快適に暮らせるまち」のビジョン修正、施策検討			4章：各ビジョンの実現に向けた施策
6月		<b>【第4回】</b> ・脱炭素化に向けた2030年までの施策の検討 ・事業者ヒアリング結果の報告 ・事業者との協働施策の検討		4章：各ビジョンの実現に向けた施策
7月	<b>【第4回】</b> ・「資源が循環するまち」「未来へつなぐまち」のビジョン修正、施策検討 ・事業者へのヒアリング結果の報告			4章：各ビジョンの実現に向けた施策
8～9月	<b>【第5回】</b> 素案の検討	<b>【第5回】</b> 素案の検討		
10～11月	<b>【第6回】</b> 最終案の検討	<b>【第6回】</b> 最終案の検討	パブリックコメント	

# 本日の議題

- ① 計画全体の構成案の検討  
【資料1】
- ② 脱炭素に関する環境ビジョン・  
将来イメージと、施策の方向性  
の検討【資料1】
- ③ 脱炭素シナリオの作成方法の説明  
【資料2】

## 3・4章の構成



# ① 計画全体の構成案の検討

## 0. 2050年守山市のありたい姿

### 1. 基本的事項

### 2. 守山市の環境をとりまく状況

### 3. 守山市の目指す環境ビジョン

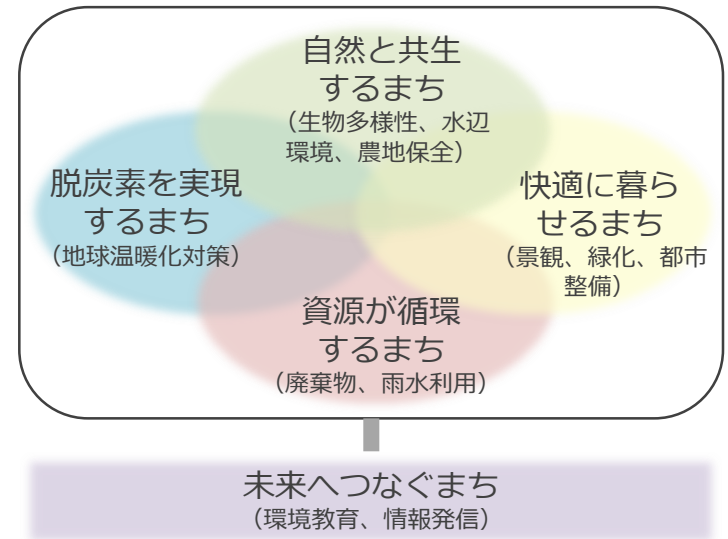
### 4. ビジョンの実現に向けた施策

### 5. 計画の進捗管理方法

<前回ご提示した構成案> ※現行計画も同様

- 序章 2050年守山市のありたい姿
- 1章 計画の基本的事項
- 2章 守山市の環境をとりまく状況
- 3章 理念及び目標、目指す環境ビジョン  
**(地球環境/自然環境/まち環境/ともに創る)**
- 4章 ビジョンの実現に向けた施策
- 5章 地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)**
- 6章 計画の進捗管理方法

## <ビジョン・施策を設定する5つの分野(案)>



## <現行計画との相違点>

- ① **区域施策編として別章を立てるのではなく、環境基本計画の一分野として内包**  
⇒脱炭素も含め分野同士の関わり合いを分断しない構成にするとともに、環境基本計画を構成する重要な分野の一つとして、位置づけ
- ② **「まち環境」を2つの分野（「資源が循環するまち」、「快適に暮らせるまち」）に分割**  
⇒特に資源循環は、脱炭素とも関連が深く重要でもあるため、独立して位置づけ

## ②脱炭素に関するビジョン・施策の方向性の検討

### <背景>

- 地球温暖化が人間活動により引き起こされていることは疑う余地がなく、このままでは地球の平均気温は上がり続け、人間や生態系にとって広範囲にわたって深刻で不可逆的な影響を与えることになる。
- 気候変動の影響を抑えるためには、世界の平均気温を1.5℃未満に抑える必要があり、我が国は、2021年4月に、2030年度に2013年度比で46%削減、さらに50%の削減に挑戦することを表明した。
- 本市では、これまで省エネや再エネ設備の導入支援や自転車・バスへの移行促進、廃棄物処理施設での排熱利用等を行ってきた。
- 市域での温室効果ガスの排出量は減少傾向にあるが、脱炭素社会の実現に向け、さらなる温室効果ガス排出量の削減が求められている。

### <現状>

- 再生可能エネルギー導入ポテンシャルとしては、全て太陽光発電であり、現在の導入量はポテンシャルの4%に満たない。
- 自動車の保有台数は年々増加しており、2035年までは人口も増加傾向。
- 産業・業務部門からのCO<sub>2</sub>排出量が市域全体の排出量の約半分を占める。
- 環境センターで発電した電力は環境センター内で利用しており、余剰分は売電している（他の公共施設への供給はできていない）。
- 市域の約40%が田畑。

### <課題>

- 建築物や平地を活かした発電設備の導入促進や住宅設備の省エネ化が必要。再エネをはじめさらなるエネルギー源を検討する。
- 今後も自動車台数が増加する可能性が考えられるため、移動手段の脱炭素化が必要。
- 企業と連携し、知恵を集結して施策を検討することが必要。
- 発電した電力を他の公共施設等で利用すれば、電力の地産地消が可能
- 農地の土壌炭素貯留に有効活用できる。

## ②脱炭素に関するビジョン・施策の方向性の検討

### 環境ビジョン

脱炭素を実現  
するまち

### 将来のイメージ

カーボンニュートラルを実現するための技術やライフスタイルが浸透する環境先進都市

### <施策の方向性>

再生可能エネルギーの普及

徹底的な省エネルギー化と効率的なエネルギー利用の促進

エネルギー消費の少ないライフスタイルやビジネススタイルの拡大・浸透

環境負荷の少ない移動手段の普及と「シェア」する仕組みの定着

気候変動の影響による環境対策や災害への備え（適応策）

### 想定される具体的施策（例）

- …
  - ・再生可能エネルギーの導入促進
  - ・再生可能エネルギー由来の電気の利用促進
- …
  - ・家庭や地域の中でエネルギー（電力・熱等）を適切に制御する「エネルギー管理システム」の普及
  - ・エネルギーの地域全体での有効利用
- …
  - ・省エネ家電や機器の導入促進
  - ・建物の高断熱化や環境性能の高い建物の普及
  - ・エシカル消費、地産地消の推進
  - ・事業者の削減取組の推進
- …
  - ・環境負荷の少ない移動手段への移行（自転車や公共交通機関の利用促進等）
  - ・CO2排出量の少ない次世代自動車の普及
  - ・利用者の意識の転換（エコドライブ、シェアリングの推進、宅配の再配達防止等）
- …
  - ・太陽光発電と併設された蓄電池設備による非常用エネルギー源の確保
  - ・気候変動の影響による自然災害に伴う被害の回避・軽減
  - ・気候変動による農作物の影響への対応
  - ・熱中症や感染症等健康被害の予防・対策

## ②脱炭素に関するビジョン・施策の方向性の検討

※他分野の施策のうち、脱炭素に関連する施策を抜粋

資源が循環  
するまち

脱炭素を  
実現するまち

### 将来のイメージ

限りある資源を効率的に使い、環境にも経済にも生活にも優しいまちになっている

### <施策の方向性>

ごみの減量化と再資源化による循環型社会の構築

### 想定される具体的施策（例）

- … 家庭系・事業系ごみの減量化
- … ごみの分別による資源回収の推進
- … ワンウェイプラスチックの削減

廃棄物など未利用資源の利用促進

- … 廃棄物のエネルギー資源としての有効利用（環境センターで発電した電力の活用）

自然と共生  
するまち

脱炭素を  
実現するまち

### 将来のイメージ

きれいな水と豊かな自然、多様な生物が生息し、人と自然が共生している

### <施策の方向性>

農業・農村の持つ多面的機能の維持・発揮

### 想定される具体的施策（例）

- … 農地の土壌炭素貯留の促進
- … 環境保全型農業の促進
- … 農地、農業用水路等の保全

自然と気軽にふれあえる機会の充実

- … 自転車道や自然体験アクティビティの充実

人の適切な営みによる生物多様性の保全

- … 湖岸エリアの保全と再生（ブルーカーボンとしての活用も見越したヨシ群落の保全）

## ②脱炭素に関するビジョン・施策の方向性の検討

### ※他分野の施策のうち、脱炭素に関連する施策を抜粋

快適に暮ら  
せるまち

脱炭素を実  
現するまち

#### 将来のイメージ

緑豊かな風景と守山らしい景観により人々が愛着をもって安心して暮らせる

#### <施策の方向性>

豊かな自然と地域資源を活用した環境配慮型のまちづくり

#### 想定される具体的施策（例）

- ... 水や緑など自然の冷却効果の最大限活用
- ... 街路樹や公園の樹木など街中での吸収源の確保

未来へつな  
ぐまち

脱炭素を実  
現するまち

#### 将来のイメージ

市民、事業者、行政が協働することで、守山らしい誇りをもてるまちを将来世代へ受け継ぐ

#### <施策の方向性>

持続可能な社会の担い手の育成

守山の環境の素晴らしさの再認識と魅力を活かした地域の活性化

連携と共有による環境への取組の活発化

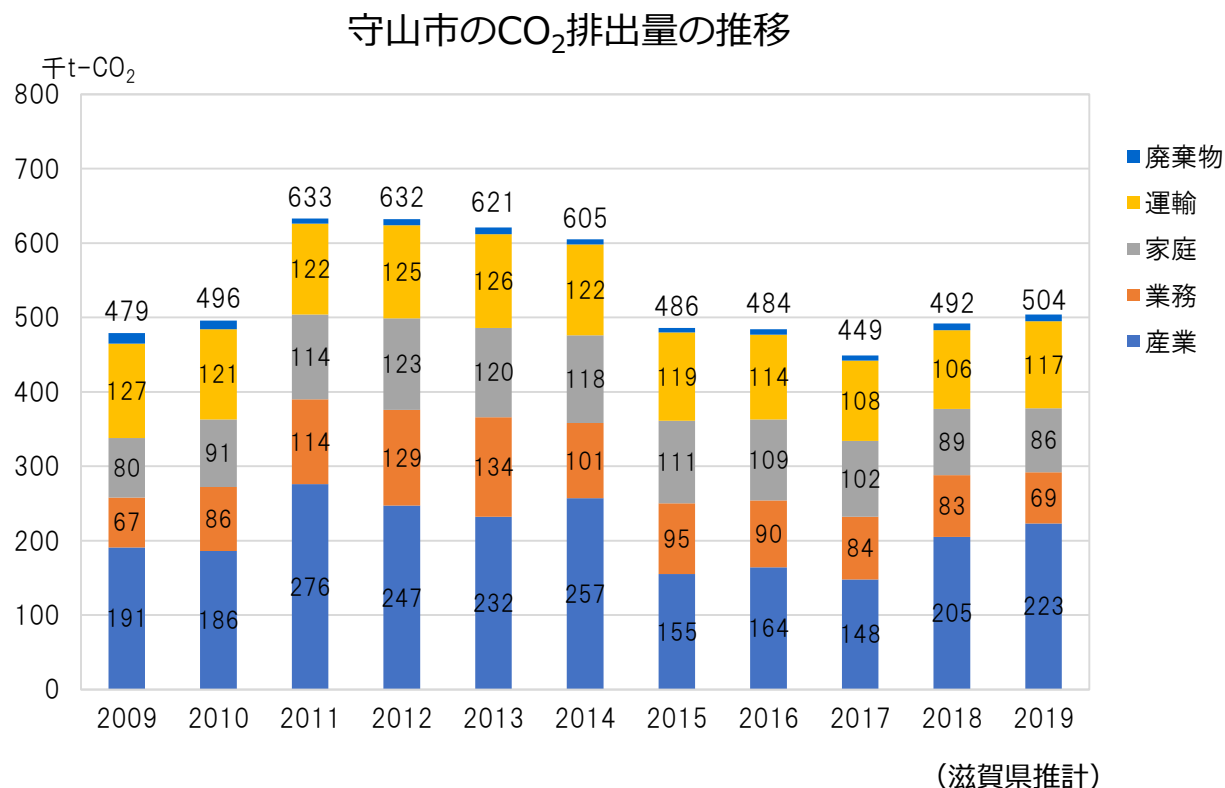
#### 想定される具体的施策（例）

- ... 様々な世代に応じた環境学習の推進
- ... 農業や自然など地域資源を活かした事業・取組の推進
- ... 守山の取組や環境活動等の積極的な発信
- ... 市民と行政の連携による情報の共有化と取組状況の「見える化」
- ... 持続可能な守山に向けた自立的な活動と取組の推進



# 【参考】 守山市のCO<sub>2</sub>排出量の推移

- 電力消費量あたりの排出係数や産業活動を維持しながらのエネルギー消費の削減が進んでいるため、市域のCO<sub>2</sub>排出量は減少傾向にあるが、2050年カーボンニュートラルを実現するためには、さらなる対策が必要。  
※2015～2017年の排出量は、企業統合により数値が計上されていない企業があり、2014年と比べて急激に減少しているが、2018年以降は計上された値。
- 家庭部門や運輸部門は、人口増加の影響により、産業部門と比べると穏やかに減少。



# 【参考】現行計画の環境ビジョン

## ＜地球環境＞

自転車道の整備や、利用しやすく分かりやすいバス等の公共交通機関の整備が進み、自動車を利用しなくても安心して暮らせる人が増えている。

建物の高断熱化が進むとともに、守山市の気候に適した建築デザインが浸透している。また、快適性を維持しつつも、エネルギー消費の少ないライフスタイルやビジネススタイルが広がっている。

自転車による移動や、CO<sub>2</sub>排出量の少ない低燃費の次世代自動車が普及している。また、それらを「シェア」する仕組みも導入され、誰でも気軽に環境負荷の少ない自動車を利用することが可能となっている。

### 将来のイメージ

家庭や地域の中でエネルギー（電力・熱等）を適切に制御する「エネルギー管理システム」が普及している。大規模な熱源からの排熱が様々なかたちで有効活用されている。

## 地球規模の環境問題の解決に積極的に取り組む先進的なまち

各主体が再生可能エネルギーを積極的に活用し、CO<sub>2</sub>排出削減に努めている。

市内での取組に加えて、近隣の自治体と連携してCO<sub>2</sub>排出量を削減するための取組が浸透している。

太陽光発電と併設された蓄電池設備によって、非常用エネルギー源が確保され、気候変動も含めた自然災害リスクへの備えが進んでいる。

# 【参考】 現行計画の環境ビジョン

## 〈まち環境〉

市民のごみの問題への理解が進み、  
ごみの減量化・再資源化に取り組んでいる。  
その結果、ごみが発生しにくい仕組みが  
地域に浸透している。

住宅や工場、公共施設等には雨水貯留設備  
が設置され、雨水が有効に利用されている。  
また、水や緑など自然の冷却効果を  
最大限に活用する取組が広がっている。

### 将来のイメージ

発生したごみは、エネルギー資源として、  
最大限有効に利用されている。

**限りある資源を効率的に使い、  
環境にも経済にも生活にも優しい緑あふれるまち**

雨水の地下浸透を推進する取組と  
農地の保水機能の保全により、  
都市型洪水のリスクが低減している。

景観に十分配慮した美しい建物と、守山が  
守ってきた田畑や緑地が合わさって  
文化的な景観を形成している。

環境への取組等によってますます魅力を  
増した守山市に人が集まり、地域の経済に  
も好影響を与えている。

# 【参考】現行計画の環境ビジョン

## ＜自然環境＞

地下水源の涵養や利用の見直しが進み、ホタルが住む地域がさらに広がり、住民の誇りとなっている。

まちなかの川が、市民の憩いの場となっているとともに、環境学習の場としても活用されている。

### 将来のイメージ\*

外来種の増加が抑えられ、守山市の生物多様性が維持されている。

## きれいな水が巡り、ホタルが飛び交う、 自然とふれあえるまち

川や湖で「遊べる」環境が整っており、市民がきれいな水に生息する生き物とふれあう機会が増加している。

市内での取組に加えて、水系を共有している近隣自治体で連携・協力した取組が進展している。

川を大切にする生活や湖流の復活により、赤野井湾の水質が改善し、多くのニゴロブナやシジミがとれるようになっている。

# 【参考】現行計画の環境ビジョン

## <ともに創る>

市民、事業者、行政といった主体がそれぞれの強みを活かした取組をしており、様々な形で活動に参加することが可能となっている。

様々な主体がそれぞれ自立的に活動しつつも、相互に信頼しながら協力して取り組んでおり、持続可能な守山市の実現に寄与している。

市民と行政の連携で情報の共有化と蓄積が図られている。また、取組の状況が「見える化」されることで、より有効な取組への努力が続けられている。

### 将来のイメージ

## 市民\*、事業者、行政が率先して取り組む 守山らしい環境先端都市

他地域と連携が進んだ結果、守山市の自然環境やその保護に向けた取組に注目が集まり、市民が守山市の環境の素晴らしさについて再認識するきっかけとなっている。

地域で取り組んできた環境保護の活動で育まれたノウハウや知恵が、環境教育等を通じて次世代を担う若者や新たに移り住んできた市民にも受け継がれ、共有されている。

# 【参考】 現行計画の施策体系

